



第42回

おはなし畑

「さあ、絵本の読み聞かせを始めよう。今日のお話は落語の『じゅげむ』。じゅげむ、じゅげむ、ごうの...」。毎月、第三金曜日の放課後、下山口児童館で小学生を対象にした絵本の読み聞かせ会が開かれ、子どもたちが目を輝かせながら話を傾けます。

絵本を読んでいるのは、ボランティアグループの「おはなし畑」。代表の内田りえ子さんが、好きの知り合いのお母さんたちに呼びかけ、新設間もない下山口児童館を会場に、四年前から始めました。会名のおはなし畑には「話のタネをまいて、大きく育てよう」との熱い願いが込められています。

その後、活動の輪が広がり、今は上山口、木古庭の児童館でも、乳幼児や幼児を対象にした絵本の読み聞かせ会を開催。定例の打ち合わせ会を含めると、毎月の活動日が五回に増え、すつ



かり忙しくなりました。

現在のメンバーは八人。昨春、女性ばかりの会に、初めて男性が加わりました。長柄在住の池上琴夫さんがその人。「小さい頃、兄に読んでもらった本が僕の成長の糧になった。定年退職して暇はあるし、何かお手伝いができればと思ってる」。自称絵本おじさんは、子どもたちの間でも人気です。

来月からは上山口児童館で小学生向けの読み聞かせ会を、三月には大人が対象の「体験！ 子どものおはなし会」も新たに開催する予定で、活動はますます活発、多彩になりそう。「子どもと一緒に絵本ワールドを楽しめば、子どもの中にきつと何かが残る。それを感じ、いい絵本を一冊でも多く読んでいきたいですね」。内田さんたちの夢は大きく広がっています。

葉山歌壇俳壇

短歌

岡田 保子 選

◎特選 *共選

明けましておめでとうございます。本年も何卒よろしくお願いいたします。
◎秋の海寄せる波のたくましく光をのせてあとからあとから 山岸由美子
(評) 立ち上り乍ら寄せ来る波の大きな海の景。エネルギーな波を「あとからあとから」と力強く歌った一首で明るい希望をも乗せて来る様だ。
薔薇一輪秋惜しみ咲く真黄に咲く秋蝶舞ひきてその色競ふ 裕子
石段に落ちる光の影揺らし風渡りゆく森戸社へ 三浦美津代
くるくると下がりし枯葉廻りある振り戻すとも跳ねてゐるとも 米田 宮子
快癒とは言えぬ身なれど喜寿迎え友とタンゴを踊り終えたり 石川サヨ子
舞い散れる桜落葉を舞うように幼なはひろう木洩れ陽のなか 鈴木 栄子
手作りの結婚式に涙ぐむ 幼き日々の孫を思いて 茂木二三子
零余子取り触ればこぼる音のして落葉に紛れぬ匿れるがごと 中川 弘子
黄ばたを植えて並べるプラント冬仕度一ツ終えた心地す 柳沢 千雪
肩章の星一つ増え笑みこぼる少年自衛官ら皆あどけなし 近藤 糺

俳句 沼田葉櫻子 選

俳句 浅井 一志 選

◎大漁旗はためく浦の初日影 安藤とみ子
(評) 初日は元日の日の出であり、その日影をもいう。年が改まって清浄で明るい太陽を拝むために、海辺や山にわざわざ出かける人もいる。浦風にはためく大漁旗と初日影の動と静が画かれて森厳な諷詠となった。
池田 双城
(評) 季語は「大鷲」、冬の季語である。鷲は鳥の王様といわれ猛禽類であるが、その大鷲がいままさに飛び立とうと構えている。飛び立つかと思いきや飛び立たなかつた。そこには何らかの意味があり、意志が働いたのである。しかし姿はあたりを睥睨し近づき難く、大鷲の面構えが明らかに見えて来ます。

人の歩も雲の流れも十二月 片山 久女
(評) 十二月の異名を「師走」「極月」という。日ごとに寒さが加わり、年も押し詰まった感じが深い。人の動きや飄々と流れる雲にも何となく慌しい空気が漂ってくる。このような雰囲気は平明に表現された。
伊藤 青風
(評) 回り道しては、たまたま回り道したから雪富士に出合ったということ、雪富士を見ながらに回り道したという解釈が成り立つ。どちらかという句のリズムからすると、作者は意識的に回り道をして雪富士を見にいった後者の解釈がよいのではないか。そこにはやっぱり来てよかったという思いがある。蒼天にクレイン吊りて冬に入る 高梨 民雄

板前の研ぎし庖丁淑気満つ 高梨 久子
ボート屋の客待つ浜の焚火かな 中村 常光
教会のスタンドグラス初日影 近藤 糺
底冷のなか緩やかに涼言葉 中島やさか
流鏝馬の碎け舞う的北風の浜 渡部 哲也

*大漁旗はためく浦の初日影 石川 光子
潮騒の岬へ百歩石路の花 安藤とみ子
階を一步一步の初詣 矢嶋弥寿子
石井富貴子

草津町との交流



草津町文化祭が、11月1日～3日に開催されました。葉山町からも各種芸術・文化団体に所属する皆さんが作品を出展し、中には草津町を訪れた方もいらっしゃいました。



秋を満喫しました

国際児童画展巡回展

12月13日～17日に図書館2階ホールで、カナガワビエンナーレ国際児童画展巡回展が行われました。世界111か国から応募のあった作品の中から入賞した約50点が展示されました。



「歩け歩こうinはやま」が11月16日に開催されました。参加者は、楽しいウォーキングゲームにうっすらと汗をかきながら、秋の葉山を満喫しました。



◆定例ボランティア活動

どなたでもどうぞ。1月10日(土)9時30分から 老人ホーム「葉山清寿苑」 ☎875-6734大熊(ボランティア連絡協議会)

◆地球環境セミナー ～地球温暖化防止への取組み

国際動向(COP9最新レポート)と自治体等の活動紹介 1月15日(木)13時30分～16時30分 フォーラムよこはま(ランドマークタワー13階) 参加費無料(先着順) ☎855-1821かながわ学術研究交流財団

◆ニューイヤーピアノコンサート ダヴィド連司・カンピニョ

サンタチェーリア音楽院卒、シューマン、ショパン、リゲティ等を演奏。1月17日(土)15時開演 福祉文化会館ホール 全席自由2,500円 ☎875-8140塚原

◆講演とシンポジウム 1・24集会

有事立法と教育基本法「見直し」のほんとうの狙い。1月24日(土)13時～17時 新横須賀三浦教育会館(日の出町) 資料代500円 ☎876-0699高橋(はやま教育基本法を考える会)

◆百人一首を楽しむ会

新春のひと時、百人一首の世界にひたりませんか。1月25日(日)13時30分～15時30分 生活クラブ生協葉山センター1階・生活リハビリクラブ葉山(送迎希望の方はご相談くだ

さい) ☎876-0234畑(ワーカーズコレクティブ「のぞみ」)

◆フォーラム食事サービスを考える

葉山・逗子における食事サービス(配食や会食)の現状と今後を考える。1月31日(土)13時30分～16時 町立図書館2階ホール 資料代200円 ☎876-2926畑(逗葉市民福祉会)

◆三浦半島エコミュージアムフォーラム

エコミュージアム構想をめぐる研究報告と、歴史・環境を活かしたまちづくりの討議等、講師は大原一興さん(横浜国大)ほか。1月31日(土)13時30分～17時20分 湘南国際村センター国際会議場 入場無料 要事前申込 1月26日(月)締切 ☎855-1821かながわ学術研究交流財団

◆日中文化講座「中国茶の多様な世界」

2月7日(土)13時30分～16時 湘南国際村センター 講師に横浜華僑総会会長・曾徳深さん他 定員100人(抽選あり)1,000円 往復八ガキ(1枚で2人まで)に行事名、全員の住所、氏名、電話番号を書いて1月28日必着 ☎855-1822かながわ学術研究交流財団(〒240-0198上山口1560-39)

◆ホームヘルパー2級養成講座

2月10日～4月27日の火・木・土曜日 横須賀市総合福祉会館ほか 68,000円(テキスト代・実習費) 1月31日(土)締切 ☎875-4637大田(神奈川高齢者生協三浦半島支部)

◆看護技術実技演習

訪問看護にも役立つ看護技術～スキンケア(褥瘡・オストミー) 2月18日(水)9時30分～16時 県ナースセンター研修室 県内在住の60歳未満の看護職者2,000円 往復八ガキに2月看護技術実技演習・住所・氏名・年齢・

電話番号・所持免許・就労状況を書いて1月28日(水)必着 ☎045-263-2101県ナースセンター(横浜市中区富士見町3-1)

◆葉山ビーチバウンドテニスクラブ 会員募集

ご一緒にどうぞ。毎日曜日19時～21時 一色小学校体育館 月500円 ☎875-0099小菅(葉山ビーチバウンドテニス)

◆剣道・柔道会員募集

毎月・水曜日練習しています。お気軽にどうぞ。☎剣道・875-2257市川 ☎柔道・878-7700石井(尚武会)

◆葉山空手道教室

会員を募集しています。幼稚(保育)園の年長から練習に参加できます。練習の見学もできます。毎週土曜日17時30分から 葉山小学校体育館 ☎878-6730平泉(葉山町空手道協会)

◆葉山わんわんパトロール隊員募集

町内で犬の散歩時に防犯の腕章をつけて散歩する防犯パトロールの活動を始めます。この活動に参加して下さる方、興味のある方はご連絡ください。☎☎875-0119三橋(ドッグライフ葉山)

◆音楽サロン

これからの老後のパートナーに音楽を選んでみませんか。一人でできるピアノは素敵ですよ。必ず弾けるようになります。楽しいレッスンと二人三脚はいかがですか。☎875-8638長井(熟年サロン)

掲載を希望するときには、掲載したい月の前月3日までに、企画課(☎内線333)へお電話ください。営利目的のもの、宗教・政治色の強いものは掲載できません。

町長と語る

トーク広場

第25回

仕事でいきいき、働く喜び 5年目を迎えた「生きがい事業団」



▶ 植木の講習会

健康で元気な高齢者の皆さんに、これまでの経験や知識が生かせる仕事を提供し、働くことを通して生きがいを見出し、今年で五年目を迎える「葉山町生きがい事業団」が誕生して、頼りがい、仕事の依頼も増えています。

今回は事業団の理事長、事務局長をはじめ、草刈りや駐車場管理など元気がいい仕事に励んでいる会員の皆さんをお招きし、これまでの歩みや苦労話、今後の課題などを語っていただきました。



左から清水さん（植栽担当）、林事
務局長、安井理事長、守屋町長



左から鈴木さん（駐車場担当）、清田さん
（植栽担当）、池田さん（屋内清掃担当）

会員数は当初の二倍に

町長 生きがい事業団が発足して、もう五年ですか。早いものですね。

安井 私も初めての経験ですし、実際に高齢者向けの仕事があるのかなど、最初は不安だらけだったんですよ。ところが、それも杞憂に終わり、ホッとしました（笑い）。

町長 実を言うと、私も心配だったんです。果たして独り立ちできるのか、途中で行政の支援が必要になるんじゃないかってね（笑い）。そのような心配もなく、立派に運営されているのには驚きましたよ。

安井 おかげさまで、事業は順調に推移しています。現在、会員登録をされている方は二〇〇人ほど。こちらも当初の三倍近くに増え、生きがい事業団に寄せる皆さんの関心と期待は相当に高いようです。

林 最近では会員の熱意や仕事ぶりが評価されて、結構、仕事の依頼が舞い込むんです。大変にありがたいことだと思っています。

丹精込めて

公園のツツジを再生

町長 今日各業務の代表の皆さんにも同席していただいています。五年



▲皆さん、仕事熱心です

間の歩みを振り返って、どんな感想をお持ちですか。

清水 私は植栽を担当しているんですが、最初は右も左も分からない中でスタートでした。今は仕事にも慣れ、とてもやりがいを感じています。植栽グループは、皆さん仕事熱心でね。そのパワーがまたすごいんですよ。花の咲き方があまり良くなかった公園のツツジを、丹精込めて手入れをして、見事によみがえらせちゃうんですから（笑い）。

町長 鈴木さんの担当は駐車場の管理だそうですね。

鈴木 はい。役場の駐車場で働いています。定年退職した後、すぐに生きが

い事業団に入会しました。働くことの喜びを感じています。

清田 本当にそうですよね。私も生きがい事業団のおかげで、会員仲間やお客さまとのふれあいが増え、交流の輪が広がりました。皆さんと輝く太陽の下での仕事が多いので、健康にも良いし、今はとっても幸せです（笑い）。

町長 清田さんも専門は屋外での仕事なんですか。

清田 ええ、お庭の草とりなど植栽関係の仕事が多いですね。

林 清田さんは仕事がいねいで、とても評判がいいんです。何しろご指名で、仕事の依頼の電話がかかってくるんですから（笑い）。

町長 池田さんは屋内の仕事が専門なんですか。

池田 はい。家の中のお掃除や洗濯、かたづけなどを主にやっています。

町長 家事サービスだと、食事なんかも作るんですか。

池田 いえ、そこまではやりません。ご要望をいただくことはあるんですけどね。

林 一人暮らしのお年寄りなどから「食事を作って欲しい」という要望は多々あるんです。でも、食中毒などの事故が起きたら大変ですし、福祉の配食サービスといったものもありますからね。それで今はすべてお断りしています。

何よりうれしい

感謝の言葉

清水 植栽班の場合は、作業中の思わぬ出来事もあります。スズメバチに刺されたり、チャドクガの被害なんてこともありますね。植え込みに入ってから作業が多いですから。

町長 スズメバチは怖いですからね。

くれぐれも注意してくださいよ。

清水 恐ろしさは十分承知してはるんですが、みな仕事熱心なんで、ついハチの存在を忘れてしまうんです（笑い）。

町長 とところで、仕事をなさっていて、一番うれしいのはどんな時ですか。

鈴木 やはりお客さんに喜んでもらった時ですね。車の整理をしていて「ご苦労さん」「ありがとう」と声を掛けられると、うれしくて、つくづく「ああ、この仕事をやってよかったな」と思っています。

清田 お客さまの感謝の一言ほどありがたいものはないですよ。

池田 仕事が終わって、お礼と感謝の言葉をいただくと、心がうきうきして「次はもっときれいにしなくては……」って思います（笑い）。

増やしたい事務系の仕事

町長 さて、最後にこれからの課題や

抱負を聞かせてください。

安井 葉山は会社や事業所が少ないので、事務系の仕事の依頼がほとんどないんです。そのため、せっかく登録したのに、仕事がない会員がいらつしゃるんです。こうした現状を何とか改善すること。それが一番の課題でしょうね。

林 いろいろ努力はしてはるんですが、なかなかねえ……。事務系の仕事に限らず、ぜひ生きがい事業団へお気軽にご相談ください。また、会員の募集はいつでも受け付けています。

町長 今日はみなさんのお話をうかがって、生きがい事業団が文字通りシルバー世代の生きがいづくりに大きく貢献していることを強く実感しました。今は人生八〇年の時代。五年を一つの節目に、事業団がさらに大きく羽ばたくことを心より願っています。



▲機械類の安全講習会